

あとがき

信州大学環境科学研究年報が 24 号をむかえました。本来、年総会・研究会のあとで印刷されることが普通ですが、本年度は大型の学長裁量経費の研究立ち上げと報告が中心となることから 3 月末日の出版となりました。本印刷は上記学長裁量経費の一部でまかなわれました。3 月 16 日に予定されている総会・研究会のプログラムを巻末に掲示しました。来年度の年報にすべてを論文として登場させていただければ幸いです。

今年は大型プロジェクトのみならず、本会員である多くの巨人が退官を迎えました。独立法人化を目前にして残された編集者は不安を覚えずにはられません。来年度の 4 半世紀目の 25 記念号がいかなる姿で編集されるか、そこに信州大学の将来を占うキーストーンが見えるかも知れません。今回の編集者は赴任してちょうど 5 年を終えました。予算の有無とは無関係に、環境科学年会・年報だけには休まず参加させて頂きました。それは環境科学には学部や専門の垣根をこえた自由で学際的な魅力が感じられたからです。

さらなる半世紀をめざして、環境科学がさらに継続発展するためには、これまでの「自由で学際的な雰囲気」に「新しい企画」が盛り込まれることが必要かも知れません。その胎動として今回の「プロジェクト企画」も一案かも知れません。あるいは会員が教官にとどまらず、院生・学生さらには一般への呼びかけを行うことで、さらに多様な内容が期待できるかも知れません。新しい信州大学の扉を開く「環境科学」でありつづけてほしいものです。

2002.03.15

編集担当 佐藤利幸・戸田任重